

5. 指導の実際
(1) 単元指導計画

関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
九九表から進んで性質を見つけようとする。	数のかわり方や共通性に着目する。	九九表を読むことができる。	乗法九九では、乗数が1ふえると、積が被乗数分だけふえることと、交換法則が成り立つことがわかる。

ねらい	主な学習活動 課題、まとめ	指導・援助	評価規準
乗法九九の表をつくる活動を通して、乗法九九の表を正しく読むことができる。	<ol style="list-style-type: none"> かけ算九九表に見方を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> この表には何が書かれているか考える。 マス目の意味を考える。 先に「かけられる数」をみて、次に「かける数」を見ることから、「横たて」の順で表を見ることがわかる。 課題をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> かけ算九九表をつくろう。 「横たて」に見方を使って、九九表をつくる。 確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> みんな確かめながら、九九表を完成させる。 適用問題をやる。 <ul style="list-style-type: none"> $a \times b$の答えを九九表から見つける。 の答えの式を九九表から見つける。 横に並んでいる答えは何の段か見つける。 たてに並んでいる答えはどんなかけ算の答えの集まりか見つける。 <p>九九表は「横たて」で見ると、式と答えがわかる。横にはそれぞれの段の答えが並んでいる。たてにはかけられる数が同じかけ算の答えが並んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 乗法九九の表を正しく読むことができない児童には、「横たて」の見方で読むことを指でなぞりながら、声に出して練習する。 <p>< C B ></p>	<p>表現・処理 乗法九九の表を「横たて」の見方で正しく読むことができる。</p>
乗法九九の表から「かわり方」に着目して規則性を見いだす活動を通して、乗法九九は乗数が1増えると積が被乗数分だけ増えることがわかる。	<ol style="list-style-type: none"> 課題を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> 「かわり方」を調べて、九九表のひみつを見つけよう。 自分で考える。 <ul style="list-style-type: none"> 横に見ると、同じ数分だけ増えていることに気づく。 同じ数はかけられる数であることに気づく。 他の段でも同じようなことが言えるのか調べる。 まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> かける数が1増えると、答えがかけられる数だけ増える。 たてやななめに見ると、どんな増え方をしているか調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> かける数と答えをつなげてみるができない児童には、2の段では「かける数が1増えると答えが2増える」ということを一緒に確かめ、他の段でもつなげて調べるように促す。 <p>< C B ></p>	<p>< 数学的な考え方 > 「かわり方」の観点で規則性を見いだそうとする。</p> <p>< 知識・理解 > 乗数が1増えると積が被乗数分だけ増えることがわかる。</p>
乗法九九の表から「共通性」に着目して規則性を見いだす活動を通して、乗法九九はかけられる数とかけられる数を入れかえても答えは同じであることがわかる。	<ol style="list-style-type: none"> 課題を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> 「同じ答え」を調べて、九九表のひみつを見つけよう。 自分で考える。 <ul style="list-style-type: none"> 同じ答えを見つけ、その式を比べる。 同じ答えの式は、かけられる数とかける数を入れかわっていることに気づく。 どんな式でも、かけられる数とかける数を入れかえて、答えが同じであることを九九表を使って調べる。 まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> かけられる数とかける数を入れかえても答えは同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で式をつくらせて調べるができない児童には、式を示し、さらにかける数とかけられる数を入れかえた式も示し、答えを比較させる。 <p>< C B ></p>	<p>< 数学的な考え方 > 「共通性」の観点で規則性を見いだそうとする。</p> <p>< 知識・理解 > かけられる数とかける数を入れかえても答えは同じであることがわかる。</p>
九九表から『の段との段の答えをたすと(+)の段の答えになること』(児童には九九表のひみつとした。)を見つけたし活用して、進んで10の段を構成しようとする。	<ol style="list-style-type: none"> 課題を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> かけ算九九の表で、2から3の段の答えをたして、ひみつを見つけよう。 自分で考える。 <ul style="list-style-type: none"> 2の段と3の段をたすと5の段の答えになることを確かめる。 他の段でも調べてみる。 アレイ図でわけをいっしょに考える。 この考え方を使って、10の段を構成する。 まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 2の段と3の段の答えをたすと5の段の答えになることが他の段でもいえることがわかった。 このひみつを使うと、10の段もつくることがわかった。九九表にはおもしろいひみつがあるんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> 構成ができない児童には、何の段と何の段をたせば、10の段を作れるのかを別の段のときを想起させて、考えさせる。 <p>< C B > < B A ></p>	<p>< 関心・意欲・態度 > 「の段との段の答えをたすと(+)の段の答えになる」ことを使って、進んで10の段を構成しようとする。</p>